



企画・取材・発行
射水商工会議所 魅力発信プロジェクト
(事務局) 射水商工会議所
〒934-0011 射水市本町2-10-35
TEL: 0766-84-5110

発行日
2015年8月1日

新湊 寺社さんぽ

引用・参考文献

「新湊市史」新湊市史編さん委員会
「いみずの神社・寺院」射水地区広域事務組合
「新湊の年中行事」新湊市教育委員会
「新湊のむかしばなし」新湊市教育委員会
「新湊内川まち歩き絵図」NPO法人水辺のまち新湊

協力

射水市、射水市教育委員会、射水市観光協会、
観光ボランティア・あゆの風、庄西コミュニティセンター、
取材にご協力いただいた寺社のご住職・宮司さんおよび檀家さん・氏子さん

制作

株式会社 ワールドリー・デザイン

内川のお寺、神社、
おんぞはんを巡る。

神と仏がコラボする
おおらかで大胆な
信仰を知る旅へ





放生山・曼陀羅寺と、その境内にある天満宮。曼陀羅寺の業師如来のご加護により、加賀藩主・前田利長の重病が祈祷快癒したことを讃え、寄進されたという天満宮です。

神が仏で、 仏が神で!?

湊町の歴史は、^{しんぶつこんこう}神仏混交の信仰とともに刻まれている。

富山県射水市 新湊・放生津地区。千年以上もの間、東西を流れる内川沿いに広がるこの湊町は、古くから人口と産業の集積地として栄え、県内で最古の都市ともいわれています。寺院や神社、地蔵堂の数は驚くほど多く、密集しています。それは、海に關係する仕事で生計を立てる人が多く、恩恵と脅威をもたらす海に特別な思いを持って暮らしてきたから。

また、物資や人々が様々に行き交うので、各地の信仰や風習も重層的にミックスされ、独特の文化やセンスが生み出されてきました。そして、神仏がゆるやかにからみあい、寺院や神社は役割や機能を補完しあってきたのです。

真正面から生死と向き合い、独特のセンスで力強く生き抜いて来た人々。彼らの信仰を集めてきた場所は、まちの歴史や魅力を知るには最高のスポットなのです。「敷居が高いかも?」「自分には渋すぎる?」なんて心配しないで大丈夫。内川は、どどーんとあなたを受け入れ、オリジナルな楽しみ方を大らかに提供してくれるはずです! 🍵

内川周辺の寺院・神社の特徴

①神と仏の距離が近い。

寺院で神様を、神社で仏様を祀っているのは序の口で、神仏コラボのお祭りや行事があったり、時には同一の存在となったりします。湊町の神仏はとても仲良しなのです。

②海運・漁業にちなんだ祭神が多い。

海上交通の守り神・金比羅大権現や、大漁招福の恵比寿、事代主神など、海にちなんだ神様が、多くご活躍の地域です。

③移動が多い。

浪害(よりまわり波)や火事などで、1度といわず3回も移動した寺社もあります。

④海から現れた神仏や宝物が多い。

海から来るものは尊いと考え、流着した人や像、巻物をととても大切にしています。

⑤狭いけれど参道を確保。

限られた土地では、少しでも格式を保つよう参道の確保などに工夫がされているのがわかります。



内川にかかる「中の橋」の先には浄蓮寺が見えます。橋も、参道の延長にうまく活用されているようです。

⑥密集地の遊び場。

昔の子どもにとって寺社の境内は身近な遊び場。お堂の大屋根にボールを投げたり、鐘をちょっとついてみたり。怒られるかどうかのギリギリで遊ぶ経験が、人との距離をつかむ訓練になっていたのかも…。

⑦猫とお経のいい関係…。

猫の多い内川周辺。日本に仏教が伝わった際、ネズミにお経をかじられないように一緒に船に乗ってきたといわれる猫。猫のおかげで、お経の保管もひと安心!?



- Point 1**
文化・芸術
関連書籍
が豊富!
- Point 2**
建物も
相当見応え
アリ!
- Point 3**
開運成就の
大黒様も
おられる



だいらくじ
大楽寺 Dairakuji Temple

平安中期創建の大楽寺。天文学や測量、芸術・文化に関する非常に貴重な資料や書物が残されています。

宗派：浄土宗 ご本尊：阿弥陀如来



平安時代、天皇の勅願で創建された、新湊・最古の寺(天台宗から浄土宗に)。様々な文化の行き交う湊町の発展を、信仰や教育の面から支えてきました。浄土宗を保護した、徳川家康(東照宮)を祀っている珍しいお寺でもあり、土蔵造りの本堂、立派なワクノウチの庫裏は、国の登録有形文化財になっています。

古典籍(明治以前の写経、写本、絵巻、木版本など)を約2,000冊所蔵。芸術・文化の貴重な資料は予約をすれば閲覧可能!
(入館料300円/※要予約)



まんだらじ
曼陀羅寺

Mandaraji Temple

1294年、奈呉の浦(現在の富山湾)で法華経曼陀羅22幅を拾い上げたのが始まり。1305年に正式な開山となる。

宗派：浄土宗 ご本尊：阿弥陀如来

- Point 1**
お寺の
境内に
お宮
- Point 2**
曼陀羅が
海中から
出現
- Point 3**
火伏せの
神様も
安置



利長の病気を治したウツサの薬師如来は、本堂に。本物は秘仏のため、厨子の中に安置されていますが、厨子の扉前にいらっしゃる代役さんの薬師如来を拝観できます。

境内には加賀藩主・前田利長の重病を祈禱快癒させたことを讃え、寄進された天満宮があります。天満宮の脇には「なで牛」が。牛と縁の深い菅原道真公(天神様)のご利益を求め、受験シーズンにはこの牛をなでにくる人が多いそう。浄土宗の寺の中に神社のある珍しい場所です。



「弘法大師は宗派を超えた信仰を作られた」と、17代住職・肥田啓章さん。本堂にはお茶飲み机があり、高野山に伝わる胃腸薬、「陀羅尼助」も販売中♪
だらにすけ

こうみょうじ
光明寺 Komyoji Temple

飛鳥時代に創始され、江戸時代に現在地に移動したという光明寺。明治以前の神仏習合が今に残る、現世にも来世にもご利益のあるお寺です。

宗派：高野山真言宗 ご本尊：金比羅大権現

- Point 1**
お寺で
おみくじが
できる
- Point 2**
海の
守り神が
ご本尊
- Point 3**
お守りなど
グッズが
豊富

創建者はインド出身の法道仙人。本尊は海上交通の守り神である金比羅大権現で、地元の漁師・船方さんからの厚い信仰を集めています。「ボケ封じ」に効くといわれる白寿観世音菩薩を始め、様々な神仏が安置されている寺。おみくじ、グッズ展開も豊富です。

せんねんじ
専念寺 Sennenji Temple

正応年間(1288~93)、時宗の寺として創建。海岸浸食等の影響で1717年に現在地へ移転しました。室町中期1474年作の銅鐘は県指定の文化財。

宗派：浄土真宗東本願寺派 本尊：阿弥陀如来

黒松と赤松の突然変異「傘松」が圧巻の寺。傘状に広がり続けている珍しい姿は一見の価値あり。中世にこの一帯で栄えた「時宗」の寺として始まり、戦国時代には浄土真宗に改宗しました。作者の銘のあるものとしては県内で最古の梵鐘が！この音は、除夜の鐘で聞けます。

前田家、高辻家の梅鉢紋が輝く、文化財が目白押しのお寺は、山門も見どころ。格式の高い四脚門の彫刻も、かなりの見応え。



Point 1
天然記念物「傘松」は必見！

Point 2
光り輝く梅鉢模様を探せ！

Point 3
作者の銘が入った鐘は県内最古



こうさんじ
光山寺 Kosanji Temple

安永年間(1772~80)に吟松庵から光山寺へと改称。1864年に発願された千体仏は、今や3000体超！蓮如「六字名号」は市指定文化財。

宗派：浄土宗
本尊：阿弥陀如来

スタンドグラスが印象的な土蔵造りの金堂には千体仏が、3,000体を超える小さな仏が、やわらかなお顔の大仏を囲みます。その数に圧倒されながらも、不思議と心が穏やかになる空間。第16世住職の泉賢秀さんは治療院も営む医僧。心も体も癒される場所です。

Point 1
千体仏がとにかく圧巻！

Point 2
秘仏に安産・子授けの神様が

Point 3
ご住職は治療院も営む

本堂には烏枢沙摩明王が！秘仏なので見ませんが厨子の外だけでも雰囲気あり。予約すれば烏枢沙摩明王祈願(安産・子授け)も、していただけます。



Point 1
火伏・防災の神様が
おられる

Point 2
漁民義人を
祀っている

Point 3
漁業者の
抛り所
存在

ちょうさくじ
長朔寺 Chosakuji Temple

1591年、放生津城主・山崎長鏡の娘、かめ子の菩提寺として、旧寺を再興してできたお寺。毎年3月23日には、このお寺に祀られている秋葉三尺坊を、放生津の秋葉社へとお移しし、鎮火祭が行われています。

宗派：曹洞宗 本尊：釈迦牟尼仏

安土桃山時代から続く禅宗のお寺。家屋の密集する放生津では火事が多かったことから、火伏せの神様である秋葉三尺坊が祀られています。また、地元の漁民義人・佐賀野屋久右衛門と四歩市屋四郎兵衛、手助けした武士の位牌も安置されており、現在も漁業者たちの大切な抛り所となっています。



本堂の柱に、「鎮防火燭」と書かれた札が。「火」の文字をできるだけ小さく、また「水」の文字に似せて書き、火伏せを願っています。



漁業を営む檀家さんが奉納した船の模型

Point 1
湊町で立山信仰に
ふれる

Point 2
寺の中に土蔵が
ある

Point 3
尼寺。女性に
おすすめ



立山信仰で、女性を救済する神と言えば「おんばさま」。曼陀羅には、彼女らの若く美しき頃も描かれています。

内川周辺でも数少ない尼寺のひとつ。度重なる火事を避けるため、地元の人々(北前船の船主ら)が力を出し合いこの地に移転新築されました。本堂の中には土蔵があり、中には慈母観音が安置され、7年前に見つかった立山曼陀羅も飾られています。湊町で山岳信仰にふれるというダイナミックな体験ができるお寺です。



せんしょうじ
専称寺 Sensyoji Temple

1849年、六渡寺日枝神社前に庵を建立開山。1896年、度重なる火事を避けるため現在の地に移転。2006年、県下では44本目となる、5幅対の「立山曼陀羅」が見つかりました。

宗派：浄土宗
本尊：阿弥陀如来



こうしょうじ 光正寺 Koshoji Temple

室町時代、1351年に放生津城のそばにある石丸村で建立。もとは天台宗、のちに浄土真宗に改宗し、移転。1821年の大火で類焼し、翌年、現在の地に移転・再建されました。

宗派：浄土真宗本願寺派 ご本尊：阿弥陀如来



室町幕府第10代将軍・足利義材が滞し、一時は将軍御所だったといわれているお寺。立派な屋根の本堂は、木造としてはこの付近で最大のもの。敷地内の建物も凝ったつくりで、見応えがあります。(外観、庭内のみ散策可能)



Point 1

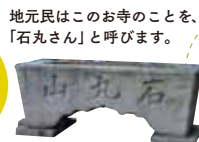
将軍御所だったかもしれない

Point 2

巨大な木造本堂の見応え

Point 3

庫裏のむくり屋根、のし瓦



地元民はこのお寺のことを、「石丸さん」と呼びます。

住居である庫裏は、屋根面が凸型にカーブしている「むくり屋根」になっています。屋根上部の「のし瓦」には、海の波の模様「青海波」が立体的にあしらわれています。凝ったつくりですね！



Point 1
紺屋町の曳山を支える

Point 2
おさんの逸話が残る

Point 3
「川の駅」からすぐ近く！

ちょうえいじ 長栄寺 Choeiji Temple

当初は真言宗の寺院でしたが、文明年間(1469～1486年)、蓮如に帰依し浄土真宗に転宗。数回の移転を経て、1853年、津幡江から現在地へ。

宗派：浄土真宗本願寺派 ご本尊：阿弥陀如来

曳山の展示がある「川の駅」向かいのお寺。1853年に津幡江(現在の野村)から移転。その頃は、紺屋町に人が少なく、住職が津幡江から曳山の引き手を連れてきたそう。また、悲恋の末、水中に身を投げた美女・小川おさんの霊が、このお寺の年に一度の法要の際にお参りに来ると言われる民話が残っています。(外観、庭内のみ散策可能)

←新湊のむかしばなし
親鸞聖人の法要に参加していた美女の座っていた後がぬれていたことから、小川おさんの霊は大蛇に化身したと言われるようになりました。



Point 1

大きなわらじが見られる

Point 2

珍しいお百度石がある

Point 3

水かけ仏で健康を祈願

←ガラスが反射するので写真に収めるのは難易度高し。ぜひ自分の目で大きさを確かめてみて！



この界隈のお寺では唯一の「お百度石」を見ることができます。お百度石から大わらじまでは5m弱。効率よくお百度参りができちゃうお寺です。

ぎじょうきょうかい/わらじでら 義常教会(わらじ寺)

Gijo Kyokai / Waraji Temple

1453年、海秀山大法寺として建立。江戸時代に義常庵ができました。1952年、大わらじの製作後は「わらじ寺」と呼ばれています。放生津城に安置されていたといわれる大黒様も祀られています。

宗派：日蓮宗
ご本尊：十界勸請大曼荼羅

高さ5.1m、重さ500kgの大きなわらじのあるお寺。わらじは外からも拝観でき、境内には水かけ仏(浄行菩薩)やお百度石なども。信行に励むことを通じて世界平和を願う法華経。心身の病を抜き、諸々の願いを叶えたい方におすすめのお寺です。(庭内のみ散策可能)



みょうれんじ 妙蓮寺 Myorenji Temple

1268年、天台宗の寺として増谷山(砺波市増山あたり)に建立。1609年に現在地へ移転しました。

宗派：浄土真宗本願寺派 ご本尊：阿弥陀如来

へ石垣造りの妙蓮寺—寺の数え歌にもあるように、境内には苔むした石垣が趣深くたたずんでいます。江戸初期、庄川の洪水により砺波の増山から現在地へ移転。お隣は「さんの湯」という地元民に愛される銭湯。背中を流す音が心地よく響きます。(外観、庭内のみ散策可能)

Point 1

もとは「舟改」番所だった

Point 2

昔に想いを馳せたくなる境内

Point 3

隣は銭湯。人々の営みも体感！



このお寺の前は、「舟改」番所があった場所。内川を往来する船にとつての要所でした。境内では今でも、人や物が行き交ったありし日の姿を思い起こす光景に出会えます。



↑ 恵比須舞 (俗称: ボンボコ)



ほうじょうづはちまんぐう

放生津八幡宮

Hojozu Hachimangu Shrine

746年、奈呉の浦（現在の富山湾）の情景を愛した大伴家持が、豊前国宇佐八幡神を勧請して奈呉八幡宮と称したのが起こり。創建の年から永々と伝えられている「放生会」は、毎年10月2日に開催されており、放生津の地名の由来でもあります。

祭神：菅田別命^{※1}、大鷗鵜命^{※2}

祭典：春祭 5月15日 / 秋祭 9月30日～10月3日

Point 1

「放生津」の由来がここに

Point 2

境内に見どころ多し

Point 3

秋季例大祭の見応え

越中の国司として赴任した大伴家持がつくらせたという神社。「社殿は宮というより寺のような造り」と宮司の大伴泰史さん。八幡大神は「八幡大菩薩」とも称される神仏習合の象徴でもあります。築山神事、曳山神事など、地域の歴史・文化の中核を担っており、「何を置いてもまずは八幡様」と、地元民から広く信仰を集めています。

力強さとかわいさをあわせ持つ、木彫の狛犬。ふっくらとした尾やたてがみ、クリッとした目で、ゲームのキャラクターにしても違和感はないそう。地元の天才木彫家・矢野啓通 19歳の時の作品。



← コロンとかわい、家持さまのおくじも。

↑ 和算家の石黒信由が24歳のときに奉納した算額（数学の問題や解き方を記したもの）。越中の伊能忠敬とも呼ばれ、数々の偉業を残した信由に因み、学業成就、芸道向上、難問突破などの祈りをこめた算額絵馬として頒布（500円）されています。

※1: ほんだわけのみこと / 応神天皇のこと
 ※2: おおささきのみこと / 仁徳天皇のこと

にしみやじんじゃ

西宮神社

Nishimiya-jinja Shrine

749年、大伴家持が漁業の繁栄と地域の安泰を願い、雲州美保神社を分霊・勧請し、奈呉浦西宮神社を創建しました。1580年、地元の武将である神保氏張が、現在の地に社殿を再建。同年より「恵比須舞（俗称: ボンボコ）」が行われるようになり、海上安穏と大漁祈願のため400年以上にわたり営まれてきました。

祭神：事代主命^{※3}、大己貴命^{※4}、豊玉媛命^{※5}
 祭典：春祭 4月19・20日 / 秋祭 10月20日

富山湾と内川の結節点に位置し、漁業繁栄と海上安全の守護神・恵比須を祀った神社。地元の漁師さんたちの崇敬を集めており、漁に出る際、船の上からお参りできるように、海側に鳥居が向けられています。無形文化財の恵比須舞、毎月20日に行われる恵比須講、年に1度の潤建の恵比須様渡しなどが営まれており、陸・海問わず漁師の暮らしに深く根ざす信仰・風習の拠り所です。

Point 1

漁師を守護する恵比須

Point 2

海側に向けた鳥居

Point 3

火伏せの神様も安置

また「潤建」とは、漁師さんたちの漁法ごとのグループのこと。西宮神社には、定置網、底引き網、カニ籠、小型いか釣、雑網（はえ縄・刺し網・一本釣り）の、5つのグループがあるそう。

境内の奉納物に書かれた名前を見ると、様々な漁法・組合があるのがわかります。→

最近は、美容師さんもよくお参りに来られるそうです。

※3: ことしるぬしのみこと / 恵比須様のこと
 ※4: おなむちのみこと / 大國主のこと

※5: とよたまひめのみこと



↑片方に枝を広げたご神木の松。
家屋密集地の中のアシ的存在。



↑木彫の拍犬は、矢野啓通の作。
放生津八幡宮の松を用いたそうです。

気比住吉神社

Hehisumiyoshi-jinja Shrine

鎌倉時代初期にはすでにあったとされる気比神社に、1880年に火事で社殿を焼失した住吉社を合祀した神社。住吉三神は、1667年に奈呉の浦(新湊沖)の海中から出現したと言われています。

祭神：足仲彦命^{※12}・表筒男命・中筒男命・底筒男命^{※13}

祭典：春祭 5月15日

- Point 1
2つの神社が合体！
- Point 2
海中から出現した神様
- Point 3
拝殿に木彫拍犬が！

北陸道の総鎮守で、日本海の海上交通の神様・気比神と、海と航海の神様・住吉神が、一緒に祀られている神社です。

※12：たらしなかつひこのみこと／仲哀天皇のこと
※13：うわつのおのみこと・なかつおのみこと・そこつおのみこと／住吉三神のこと

日枝神社

Hie-jinja Shrine

創立年はあまりにも古く不詳ですが、平安時代大治年間(1126～1131年)に神主が居たという文献が残っています。近江国坂本の日吉大社から分霊を勧請したとされます。現社殿は1861年の建立。社宝として伝わる三体仏(薬師如来、釈迦如来、阿彌陀如来)は、市の指定文化財。神仏混交の名残を今に伝えます。

祭神：大山咋命^{※6}、大己貴命^{※7}、天照皇大神^{※8}、豊受大神^{※9}、大物主命^{※10}

祭典：春祭 5月14日／秋祭 10月6日

- Point 1
神仏混交の象徴、山王鳥居
- Point 2
神社に仏さまが！
- Point 3
玉垣・灯笼に船関係の名前が



水見獅子の流れをくむ六波寺の獅子舞は、踊りのキレや演目の豊富さから、県内随一とも。日枝神社の春と秋の祭りで盛大に演じられます。同行する屋台は、曳山の雰囲気。夜には提灯がつくそうです。

鳥居の上に屋根形の石を組み合わせた国内最古の「山王鳥居」は、神仏混交の象徴。神社ですが、三体の仏像が秘蔵されています。これは、本地垂迹説^{※11}に基づいたもので、平安時代から神社がお寺に從属していた名残を今に留めるものです。玉垣や灯笼には北前船で運ばれた瀬戸内産の石が使われ、船問屋や船名などが刻まれています。

※6：おおやまのみのこと(日吉大社東本宮の本地仏：薬師如来)
※7：おなむちのみのこと／大日主のこと(日吉大社西本宮の本地仏：釈迦如来)
※8：あまてらすすめのおかみ／天照大神のこと ※9：とよけのおおかみ
※10：おおもものぬしのみこと
※11：仏が神の姿に変わって民衆の前に現れるという神仏混交の信仰形態

境内に、疫病の神を祀る「来名戸社」が、江戸時代に流行した神様で、伝染病(オコリ、コレラ)を防ぎ、病氣平癒を祈願する「オコリハン」として親しまれ、崇敬されています。

日吉社

伝承によると986年、天台宗の地方布教とともに創建されたと言われています。古来より放生津の中央部・山王町に鎮座してきましたが、1714年に現在地へ移転。神仏混着の名残である仏三尊(薬師如来、釈迦如来、阿彌陀如来)があります。

祭神：大山咋命(おおやまのみのこと) 祭典：春祭 5月15日

以前は「山王さん」と呼ばれていたため、その一帯が山王町となり、約300年前に現在地へ移転した後も地名はそのまま残っています。拝殿内部には珍しい猿の右大臣・左大臣の木像や、猿に因んだ絵馬が、建物の外でも見事な籠彫りの猿の彫刻が楽しめます。



拝殿は普段閉じられているので、中のお猿さんたちを拝みたい方は、春祭 or 毎月1日の朝6:20ごろ目指して来てください！

お参り後お孫さんのインフルエンザがすぐよくなった氏子さんもいらっしゃるとか。



- Point 1
お猿さんがいっぱい見つかる
- Point 2
病を防ぐオコリハンを拝める
- Point 3
浪害でこの地に移転



おんぞはんの数だけあります、エピソード。



古新町の観音堂
33体の観音様が安置されている界限で最も大きいお堂。観音様は33の姿に変身して人々を救うと言われ、三十三霊場や三十三間堂などのミニパワースポットが各地につくられましたが、この観音堂もそのひとつです。(古新町/湊橋たもと)



海を渡った十一面観音
船乗り・四郎右衛門の夢枕に立たれた十一面観音。北海道へ行く途中の佐渡でその観音様に出会いました。船に観音様をお迎えすると荒れていた海が静まり船を進めることができ、放生津に無事帰れたというお話です。(中町)※写真、真ん中の観音様です。

おんぞはん

Onzo-han (Ojizo-san)

内川の界限に150カ所はあると言われている地藏堂。地元の人々はお地藏さんのことを親しみを込め、「おんぞはん」と呼びます。辻々にあるので、少し歩いただけでいくつものお堂に出会えます。腕のよい船大工が手がけた素晴らしい彫刻が施されたもの、伝説のこて絵名人が作ったものなど、お堂だけでもかなりの見応え。

そして、扉の中にはさらにカラフルな小宇宙が広がっています！お水やお供え、独特の飾りつけなど、毎日お参りされ、大切にされているのがよくわかります。多くの「おんぞはん」は、夜になると電気がつきます。暗い夜道でも、あちこち灯る明かりに、心癒されます。



漆喰を立体的に塗り重ねる「こて絵」の名人・竹内源造が手がけた地藏堂。多くが木造のお堂であるなか、特に異彩を放ちます。圧倒的な立体感と、龍、象、ウサギなど動物たちの躍動感に見入ってしまいます。(八幡町愛宕社横)



立派な石の台、木造お堂、銅板葺きの堂々たる屋根。屋根のポリウムがあって立派なものも多く、潮風や雨雪から守るため、サッシやトタンで囲われているものをよく見かけます。(舟附地藏堂/光正寺脇)



昔の佇まいをそのままに残すお堂。正面の扁額には「和」の文字が。中のお地藏様は海中から出現したと言い伝えられています。小さいながらもしっかりとした造りです。(港町/漁民義人塚近く)



この界限では数少ない平入り&銅板葺きのお堂。扉も大きめ。他地域では扉のついていないお堂にお地藏さんが安置されていることが多いですが、内川ではほぼ例外なく観音扉付きです。(立町/妙蓮寺横)



おんぞハンティング

お地蔵さんを巡りながら、
内川の日々の営みを探訪してみよう!

150はあるという「おんぞはん」を見つける旅に出てみましょう。その名も「おんぞハンティング」。お堂の材質や形はどれも違って、どれも立派! お堂だけを見るのではなく、少し離れて、橋や水辺などの周囲の風景とともに見てみましょう! お地蔵さ

ん(観音様の場合も)が、しっかりと人々の暮らしにとけ込みながら、地域を見守っていらっしゃるのを感じられるはず。お参りやお世話の方に遭遇できたらラッキー! お堂の中を見せてもらったり、地域の話を教えてもらったりしましょう!

新湊 寺社さんぽ MAP

神と人がコラボする、
大らかで大胆な港町。
その信仰を知る旅へ...



拡大図次ページ
六渡寺エリア

※地図上の●(黄色い丸)は、
おんぞはんのお堂の場所です。

拡大図次ページ
放生津エリア

自分の命とひきかえに 地域の窮状を救った 漁民義人塚



漁師総代・佐賀野屋久右衛門と四歩市屋四郎兵衛が祀られています。彼らは、悪徳商人が放生津の漁民を支配し、思うままに利権をむさぼっていたことを、加賀藩の奉行に直訴しました。江戸時代、直訴はご法度であり、首謀者の2人は斬首されてしまいましたが、これが契機となり、現在の魚市場に相当する放生津魚場が開設され、漁民の窮状が救われました。

海に身を投げた悲恋の美女を慰める 小川おさんの碑



北前船でやってきた上方の船乗りと恋をした美しいおさん。末は夫婦と深い契りを結んだものの、翌年になっても現れず、別の船乗りから自国に妻子がいることを知らされました。満月の夜、おさんは半狂乱で「奈呉のふけ」と呼ばれる底なしの深間に身を投げたのでした。



京都と東北をつなぐ浜街道の要所
三ヶ新の道標
「越後出羽道」と書かれた道標は、安政6年(1859)に立てられたもの。ここは京都方面と東北方面の重要な三叉路でした。方向を指差す手に当時流行の元禄袖があしらわれたおしゃれさと、『←京都、現在地、新潟・東北→』という現代ではあり得ないざっくり、ダイナミックな位置表示にご注目を。

ほうじょうづ
放生津エリア



Let's
おんごハンティング!!
細い路地地にはたくさんあります!

※地図上の●(黄色い丸)は、おんごはんのお堂の場所です。

ろくどうじ
六渡寺エリア



！ 歴史ヒストリアチーム、とっておき！
もっと寺社を楽しむ方法

1 訪れる時間を
変えてみる。

朝8:00～8:30ごろお寺を訪れると、朝のお勤めに遭遇できるかも。「おんぞはん」のお世話も、朝8:00～9:00の間が多いようです。毎月1日の早朝には神社の拝殿が開いていることもあります。夜、「おんぞはん」に灯った光をたよりに散策もいいかも。いつもと違う時間に行くと、珍しい光景に出会えますよ♪

2 建材・石材を
石確認してみる。

石垣、灯籠、狛犬、鳥居、お墓など、石を見るだけでも時代を感じられます。江戸後期には北前船によって瀬戸内産の御影石が使われるようになりますが、江戸初期には^{しんぐたし}笏谷石（水をかけると青くなる）が、それ以前は岩崎石（伏木沖で採れた砂岩）が主流でした。いろんな建材・素材から昔に想いを馳せてみましょう！

3 〇〇探しを
してみる。

歴史・文化に自分らしくアプローチするために、そして何度も行った場所を新たな視点で見るために、「今日は〇〇を探そう！」とテーマを決めてみましょう。例えば、丸いもの、赤いものなど、共通の色や形を集めるのもよいですし、北前船、漁師などのテーマで巡るのもオススメ。散策を積極的に楽しめますよ♪

！ さらに深く楽しむために…
地元ガイドさんに聞こう

新湊地区 観光ボランティア
あゆの風
新湊エリアの観光地を案内してくれるボランティアグループ「あゆの風」。内川周辺散策や観光船遊覧などのコースが用意されています(案内は要予約)。青いベスト(夏は水色のTシャツ)が目印！見つけたら声をかけてみて。フランクかつハイテンションに歓迎してくれますよ♪



！ 新湊歴史ヒストリアチーム
リーダーの一枚



しんみなと
歴史ヒストリア
プロジェクトリーダー
吉久 磨



放生津(旧奈呉町)の民家が立ち並ぶ一角に、気比住吉神社があります。神社の中で一層目を引くのは、玉垣を突き破る姿で伸びる松の神木で、強い生命力を感じ、思わずシャッターを切っていました。ここはもしや、パワースポットなのかもね。

新湊に生まれ育ちながら、そこには私の知らない新湊がありました。この企画・取材に参加して、故郷の新たな魅力を発見する機会になりました。おすすめスポットは、放生津八幡宮の狛犬と庄西町(旧六渡寺)にある日枝神社の鳥居です。



魅力発信プロジェクトリーダー
八嶋 祐太郎

ここ新湊地区の150もある「おんぞはん」の数は信仰の広がりや、そして毎日お花が供えられ綺麗にされているその様子は信仰の深さが伺いれます。「新湊のまち」は「信仰の街」でもあります。そんな街を誇りに思っています。

この町には、そこに生きる人たちが生活の一部として大切に守ってきた文化が残っています。是非この町を歩いて「飾らない」「気取らない」ありのままの息吹を感じてみてください。どこか懐かしく、優しいその様に、きっとあなたも虜になるはずですよ。



事務局
島倉 晃一



協力
松山 充宏

戦国時代の古文書によれば、放生津は八幡宮、神明宮、山王社、気比社の門前町が結びついた街並みでした。当時戦乱で荒れた京都も、神社・寺院の門前を拠点に復興を遂げたとする研究があります。京都と放生津の共通点が、こんなところで見つかりました。

あとがき 大胆で大らか、そして奥深い

今から約150年前の1868年、明治政府は「神仏分離令」を発しました。八百万神を崇敬する日本の土着信仰に、大陸から伝来した仏教信仰が合わさって以来1300年以上続いて来た「神仏習合」の歴史を大きく変える出来事でした。国教を神道とするため、神仏入り交じった環境をシンプルに区別しようと発令されたものですが、地域によっては「廃仏毀釈」が広がっていきます。お寺の管理下にあった神社が日頃のうづ屈を晴らすために仏教関連のものを焼いたり壊したりと、過激な運動がしばらく続きました。特に、隣にあった富山藩は、313あったお寺を各宗1寺、わずかに8カ寺にまで統廃合するという、国内でも激しい廃仏毀釈のあった場所でした。そんな中、内川周辺の檀家・氏子たちは、神仏混交の象徴である神仏や装飾品を、家の蔵や床下に隠

して守ったそうです。そんな過去に想いを馳せながらそれらを拝観していると、独自の理性で大胆に自治をして来た人々の“誇らしい勇気の証”を見ているような気分になります。そして、自然のものと神仏に手を合わせ、互いに尊び、助け合おうとする必死さも伝わってきます。便宜的な政策が、行き過ぎた状況を生み出したとしても、大切なものは時に堂々と、またある時は細々と、またある時は形を変えて続いていく。内川の信仰も関わっている人々も、大胆で大らかに見えて、奥には凛としてゆるぎない芯があるのを感じます。フランクで肩の力が抜けているように見えるのは、辛いところや頑張りどころを身をもって知っているから。本当に知れば知るほど奥深いなあ…。📷 撮影・デザイン・編集：明石あおい